

「次世代育種」促進研究会について

1. 主旨

国内においては、戦後の造林地が主伐期を迎えるとともに、林野庁が策定した「森林・林業再生プラン」において木材自給率50%の目標が設定されており、林業用種苗の生産についてもこれに対応できる体制づくりをしておく必要がある。しかしながら、種苗生産事業体の減少、採種園を管理・運営している都道府県の育種部間の縮小によって、今後の供給能力の低下が懸念される。

一方、国外においては、ニュージーランド、北米等では林木育種の成果を林業経営に大きく反映するとともに、精英樹のさらなる改良を進めており、わが国の育種は遅れている状況にある。

そこで、林業用種苗の需要の増加に対応できるように供給体制を強化し、現在選抜が進んでいる性能が格段に向上した第2世代精英樹を林業用種苗生産に活用するとともに、さらに優れた第3世代精英樹の開発を進めるため、次世代化を促進するための方策を早急に検討する必要がある。

2. 検討内容

- (1) 第2世代精英樹の選抜と活用にかかる、林木育種センター、都道府県、民間等の関係機関の連携のあり方
- (2) 第2世代精英樹の採種園・採穂園の整備方向
- (3) 第2世代精英樹の苗木生産・供給体制
- (4) 第3世代精英樹の開発方針

3. 会の構成

委員： 飯塚和也 (宇都宮大学准教授)
 伊藤一弥 (王子製紙株式会社森林資源研究所長)
 太田清蔵 (全国山林種苗協同組合連合会会長)
 川端康樹 (速水林業)
 合原眞知子 ((社)日本林業経営者協会副会長)
 佐藤 明 (東京農業大学教授)
 戸丸信弘 (名古屋大学教授)
 福田栄子 (栃木県林業振興協会女性部会顧問)
 [五十音順]

事務局：森林総合研究所

オブザーバー：林野庁
 都道府県

4. 活動予定

- 第1回会合 7月5日 (設立会合：課題、認識の共有化)
 第2回会合 9月 (目的に掲げた課題の検討)
 第3回会合 年内 (中間取りまとめと今後の方向性)